

## 【22\_296技術系メルマガ】ドル円(為替介入)に想う事

〇〇さん

こんにちは、クロガキ(クロ)です。

10月の相場を振り返ると、常にTwitterで話題の中心となっていたのは  
もっぱら「日銀の為替介入」「ドル円」だったかなと思います。

かくいう僕は、我関せずくらいの勢いでいつも通りの通貨ペアを標的にして

いつも通りの『型』でトレードすることばかりを考えていたので

あの圧倒的なボラティリティの恩恵を受けることも、逆に被害を被ることもありませんでした(笑)

そんな僕のところにも、ドル円が大きく動くたびにいろんな方面からメールを頂くので

そういう連絡を受けてチャートを見ると、大体それで内容を察してしまうわけです。。

先週金曜日深夜の151円到達から500pipsを超える反転下落の後にも

ショートを持っていたという人からは

「もっと握っていれば良かったのでしょうか？」

「こんなボラであっても、いつものpipsで利確してしまっても良いのかモヤモヤします」

というコメントが多く届くし

逆にロングを持っている(た)人からは

「介入なんか無ければこんなことにはならなかったはずなのに・・・」

というコメントが続々と僕のもとに寄せられました。

頂いたメールには、僕の意見を書いて既に一通りお返しをしましたが  
すべて共通してお答えしたことは、僕としては一貫しています。

今日はその話を少し掘り下げて書いていこうと思います。

今回は抽象度が高い話になると思いますが、『リスク管理』という観点の考え方が中心になるので

敢えて【技術系】の括りとしてお送りします。

□  
└─ ■ それは『いつものサイコロ』だったのか？  
└──────────────────

僕が、一つ一つのトレードに対し問うのは、常にこれだけです。

どんな相場状況になろうが、その中で自分が『いつも信じている型の優位性』に沿ってトレードをしたのか？

十分な検証とテストを重ねて作った『型』に沿ったテクニカルを用い

前もって決めた『リスク管理』に基づいてロットとリスクリワードを守り

勝とうが負けようが、その結果に納得して次のチャンスに備えようとしているか？

僕がトレードにおいて意識を集中させるのは、これだけです。

自分が利確（損切）した後に、そのあとの値が何百pips動こうが、それが自分の型の範疇に収まるものでないのなら

そんなものは取りに行けるわけがないし、取ろうとしてもいけないのです。

そんななかで、僕が相互フォローさせてもらっているある人のツイートが

非常に納得度の高いものだったので紹介しますね。

▼ツイート紹介▼

<https://twitter.com/FX23772652/status/1583738521629515777?s=20&t=tmuLxZrhnyvw0D8DSxdqHw>

これも、今まで幾度となく伝えてきたことですが

トレードって、結局自分でやったことに対して生じた結果を『すべて自分が引き受ける責任』を持ってないなら、やらない方が良いのです。

良し悪し関係なく、すべての結果を『納得して受け容れる』というのは

実のところ簡単な話ではないのですが、それをやり切るために必要なこととして

『常に自分が一貫した行動をできている(同じサイコロを振っている)』という確かな実感を意識することしか無いと考えています。

ですから、それがしっかりできているのなら

「為替介入」といういつ起こるか分からない事態は『起こるかもしれない』と覚悟して

いつも通りの型に沿ってトレードすること。

それさえできていたのならば「30pipsの利確」も「逆行された損切」も

すべて“納得すべき結果”として受け容れられるはずなのです。

もし、そうでなかったのなら、それは相場に対して自分の都合のいい未来を押し付けようとした結果

一貫性の無いトレードをしてしまったのだと、自分自身が反省して次に活かさないといけません。

ここが相場と対峙する人間にとって 一番制御が難しい所 ともいえるのですが

一般的な水準から頭一つ抜けたトレーダーになるためには必要なのだと思います。

週末の相場を振り返って、自分の中でも意識を新たにして行かなくてはと思った今日この頃です。